

■ 小学校6学年 社会科 (9)

単元名・単元のねらい	主な学習内容	博物館資料	資料活用の視点
<p>(8)移り変わる社会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸の文化や町人や農民の生活の様子を調べ、町人が力を持ち始め、農民が生産力を高める一方で、幕府の力が次第に弱まり、国学や蘭学を学んだ人々の間で、政治の行き詰まりを変えようとする新しい動きがおこり、ペリーの来航により開国に至ったことをとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸のすもうを観戦しよう</li> <li>・人々が力をつける</li> <li>・人々が立ち上がる</li> <li>・蘭学が広がる</li> <li>・鎖国が終わる</li> </ul>	<p>[E、中ノ郷と原ノ町宿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原ノ町宿絵図</li> <li>・原ノ町宿の想定復元模型</li> <li>・商家の店頭</li> </ul> <p>[E、天明の飢饉と村おこし]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御仕法を実施した村々</li> <li>・富田高慶坐像</li> <li>・御仕法の鍬</li> <li>・御仕法建ての家屋</li> <li>・御仕法の成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戊辰戦争直前、官軍側で戦略上から作成させたもので、浜街道に沿い、南・北の木戸、宿場の街並みのようす、野馬土手の風景などがよく描かれていることをとらえさせる。</li> <li>・幕末、19世紀中頃の原ノ町宿場の模型である街の中央の掘割、高札場、右手奥に中ノ郷陣屋の建物などの景観を示している。宿場の様子を想像させる。</li> <li>・幕末のころ、原ノ町宿で商家を営んでいた順生堂（天野屋）の店先を想定復元したものである。看板の一徳丸は、この店の専売葉であった。当時の商家の様子を想像させる。</li> <li>・御仕法の最大事業は、水利事業で、旧相馬領内の溜池、堤、用水路は、この時期に新築、改築されたことをとらえさせる。</li> <li>・二宮尊徳の高弟、中村藩士富田高慶の木彫、中村出身の彫刻家佐藤朝山が、大正10年(1921)に完成したもの。</li> <li>・富田高慶は、尊徳の代理として、領内の御仕法実施を指導し、成功に導いた。</li> <li>・御仕法では、働き者を表彰して、金や農具を与え、農業への意欲を高めるとともに、困窮者の救済、家屋修理、新築への助成、開墾、堤、用水路の普請などの事業を行ったことを理解させる。</li> </ul>